

乙 第 号

藤本 佳克 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	大林 千穂
論文審査担当者	委員	教授	伊藤 利洋
	委員(指導教員)	准教授	川口 龍二

主論文

Comparison of redox parameters in ovarian endometrioma and its malignant transformation

卵巣チョコレート嚢胞とその悪性転化における酸化抗酸化パラメーターの比較

Yoshikatsu Fujimoto, Shogo Imanaka, Yuki Yamada, Kenji Ogawa, Fuminori Ito, Naoki Kawahara, Chiharu Yoshimoto, Hiroshi Kobayashi

Oncology Letters. 2018 Oct; 16(4): 5257–5264.

## 論文審査の要旨

子宮内膜症関連卵巣癌（EAOC）発生のメカニズムについて酸化抗酸化微小環境に着目した研究である。EAOC 内容液はチョコレート嚢胞と比較すると酸化ストレスマーカー（HO-1、8-OHdG）が有意に低値であり、抗酸化能（総抗酸化能/ヘム鉄）は高値であった。これらの結果から癌化には酸化抗酸化のバランスが関与しており、酸化能が強いとアポトーシスが誘導され、逆に抗酸化能が強いと DNA 損傷を保持しつつ細胞生存し癌化に適する環境が形成されるという、これまでとは異なる発がんプロセスが想起された。また HO-1 がチョコレート嚢胞からの癌化初期段階を捉えるバイオマーカーとなる可能性も示唆された。

他疾患での HO-1 の動態、チョコレート嚢胞の癌化に関与する酸化抗酸化バランス以外の要素の可能性、HO-1 産生細胞やその移行について質疑が成された。申請者からは HO-1 は悪性腫瘍では上昇することが多く、いくつかの良性疾患で低下するがその機序は不明であること、また発癌には DNA の損傷や M2 マクロファージの関与が考えられ、今後の検討課題であることが述べられた。

本研究は卵巣発癌の機序に新たな展開の可能性を示す、重要な研究と見なされる。公聴会の発表、質疑応答も併せて、学位論文として値すると思われた。

## 参 考 論 文

1. 本態性血小板血症を合併した卵巣嚢腫に対して腹腔鏡下卵巣嚢腫核出術を施行した 1 例  
山尾 佳穂, 鹿庭 寛子, 藤本 佳克, 丸山 祥代, 中村 春樹, 山下 健  
日本産婦人科・新生児血液学会誌(0916-8796)28 巻 1 号 Page4-5(2018.05)
2. 腰椎麻酔下帝王切開術後における高アミラーゼ血症に対する予測因子の後方視的検討  
大西 俊介, 藤本 佳克, 今中 聖悟, 丸山 祥代, 山下 健  
日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)53 巻 1 号 Page83-87(2017.05)
3. 当科における卵巣癌に対するベバシズマブの使用経験  
藤本 佳克(地域医療機能推進機構大和郡山病院 産婦人科), 丸山 祥代,  
大西 俊介, 山下 健  
産婦人科の進歩(0370-8446)68 巻 3 号 Page298-299(2016.08)
4. 形成術および術後エストロゲン軟膏塗布が奏効した閉経後陰唇癒着症の 1 症例  
河原 直紀, 藤本 佳克, 丸山 祥代, 山下 健.  
産婦人科の進歩(0370-8446)65 巻 1 号 Page46-50(2013.02)
5. 妊娠初期に十二指腸潰瘍穿孔を発症した 1 例  
伊東 史学, 丸山 祥代, 藤本 佳克, 山下 健  
産婦人科の進歩(0370-8446)63 巻 4 号 Page488-492(2011.11)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに女性生殖器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年9月8日

学位審査委員長

病理診断学

教授 大林 千穂

学位審査委員

免疫学

教授 伊藤 利洋

学位審査委員(指導教員)

女性生殖器病態制御医学

准教授 川口 龍二